

性的マイノリティー バッジが結ぶ理解の輪

長岡市作成、職員に配布



長岡市が作った性的マイノリティーの支援者を示すバッジ……する「レインボーフラッグ」の6色を背景に、性的マイノリティーの理解者、支援者を示す「Ally（アライ）」の文字をあしらっている。

長岡市は多様性を受け入れる社会にしようと、性的マイノリティーについての研修や講演会を開催してきた。社会的な関心も高まる中、まずは市職員が正しく理解し、バッジを付けることで支援者であることを示すことにも取り組む。

市人権・男女共同参画課の穂刈美枝課長は「バッジを通じて理解の輪が広まっていることを伝えたい。生きづらさを解消し、性の多様性を認める社会に近づければいい」と話す。

2022年度は新たに高校生を対象に講演会を開く予定だ。一般向けには23日午後1時半から、市立中央図書館（学校町1）で講座を開く。会場参加は先着80人、オンラインは先着90人。無料。19日までに申し込む。問い合わせは同課、0258(39)2746。

性的マイノリティーの理解を支える活動の一環として、長岡市は、支援者であることを示すレインボー柄のバッジを初めて作成した。まずは市職員らを対象にした研修会の受講者に配布。今後も職員らに配り、着用することで理解の輪を広げていきたい考えだ。

バッジは、多様性を象徴